平成 24 年度第５回

県政知事懇談

湯﨑英彦の地域の宝
チャレンジ・トーク

と　き　平成 24 年７月 21 日（土）
ところ　大竹市立図書館　ギャラリーおおたけ

広　　島　　県

目　　次　　頁

開　　会 ……1

知事挨拶 ……1

事例発表者紹介 ……2

事例発表① ……3

事例発表② …… 10

事例発表③ …… 15

事例発表④ …… 17

閉　　会 …… 21

開　　会

（司会（八幡））

大変長らくお待たせをいたしました。

ただ今から「湯﨑英彦の地域の宝チャレンジ・トーク」を開催いたします。

私は，広島県広報課の八幡と申します。

本日は，チャレンジに向けて元気の出る楽しい会にしたいと思います。どうかよろしくお願いをいたします。

知事挨拶

（司　会）

それでははじめに，湯﨑英彦広島県知事がご挨拶を申し上げます。

（知事（湯﨑））

皆様，こんにちは。ありがとうございます。

今日は土曜日で，大変お忙しいにもかかわらず，この県政懇談会「地域の宝チャレンジ・トーク」にお集まりいただきまして，本当にありがとうございます。

この県政懇談会は今年３年目に入っておりまして，１年目は，各市町，県内 23 ありますけれども，それぞれ回らせていただきまして，住民の皆様 10 人ぐらいの方々と懇談をさせていただきました。大竹には，22 年７月に，やはり暑い時期だったのを覚えていますけれども，お邪魔させていただきました。去年は県内を８地域に分けて行いましたので，今年の１月に廿日市でやらせていただきまして，大竹の皆様にはそちらにご参加をいただきました。

今年はまた改めて 23 市町全部を回らせていただいています。去年から始めましたそれぞれの地域での皆様の挑戦というのを今年も発表していただく形態をとっております。これは，皆様お聞きいただくと，地域で本当に頑張っていらっしゃる方々がいる。それも特別なことではなくて，皆さんそれぞれがいろいろな場所で，それぞれの持ち分というか，立ち場というか，役割の中でいろいろなことができるということを，今日もお話をいただけるのではないかと思いますけれども，それがご理解いただけるのではないかと思います。とても元気が出るので，是非今日最後までおつき合いいただいて，そしてまた明日からの活動に結びつけていただければと思っておりますし，県としても，皆様のそういった活動，挑戦を後押ししていくような形で政策展開を進めたいと思っているところです。

今日は，この会場に来る前に，大竹市内の三つの場所を回らせていただきました。最初

は，晴海臨海公園で第１回のサッカー大会が行われるということで，開会式に参加させていただきました。県内，また県外から 16 チームも参加があって，大きな大会になっています。その後，松ヶ原のカフェにお邪魔させていただきまして，これは地域の交流の拠点ということと，それから，大変おしゃれなカフェで，皆さん楽しんでいただけるような場所でした。また，大竹中学校でストーンアートの制作に参加させていただきました。すばらしい地域づくりに挑戦されている皆さんの現場を拝見させていただきまして，本当にたくさんの宝，あるいは力があるというのを改めて感じてきたところです。

今日の懇談では，大竹で地域の課題解決に取り組んでいる，あるいは挑戦をされている４組の皆様に事例の発表をしていただきます。

広島県では，今，広島に生まれ，育ち，住み，働いて良かったと心から思える広島県，この実現に向けて,いろいろな政策を進めていますが,皆様とともに考えていきたいと思っております。

それでは，今日これから 70 分ほどですが，実際には大体 10 分ぐらい超過するので，少し長くなりますけれども，おつき合いいただければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

（司　会）

湯﨑知事，ありがとうございました。湯﨑知事，壇上のほうのお席にお移りください。

事例発表者紹介

（司　会）

それでは，本日の事例発表の皆様をご紹介いたします。発表者の皆様は壇上にお上がりください。

それでは順番に皆様をご紹介いたします。

はじめに,広島県の内外で音楽ライブを開催されている「広島ミュージックジャンボリー 2012」の実行委員会代表 前田満樹さんです。

続いて，火災や災害予防の広報活動と，高齢者のお宅へのサポート活動をされている大竹市女性消防団の薄加代子さん，西村文子さん，石津洋美さん，竹中朱美さんと永見京子さんです。

続きまして，大竹市中心のスペイン通りの活性化のため，自分たちで企画をし，販売実習を行った大竹高校の福田千帆さんと山根江利果さんです。

最後の一組が，生徒会が呼びかけ，地域での清掃活動やあいさつを行う取組をしている大竹中学校生徒会の亀谷麻巳子さん，尾崎航太さん，村中文香さんと森田美樹さんです。

皆さん，どうもありがとうございました。それでは，事例発表者の皆様はお席のほうにお戻りください。

ここからは湯﨑知事にコーディネーターをお願いしたいと思います。それでは，湯﨑知事，どうぞよろしくお願いをいたします。

事例発表

（知　事）

それでは改めて，よろしくお願いいたします。

今日事例発表をしていただきます４組の皆様は，地域や職場，あるいは学校で積極的に活動をして，挑戦を続けていらっしゃる方々です。ちなみに，これは大体４人なのですけれども，今日は 12 人も，ステージに並びきれないぐらいの皆さんにご参加いただきまして，これは初めてで多分最後になるのではないかと思っておりますけれども，大竹パワーを早速感じております。

それでは最初に，広島ミュージックジャンボリー実行委員会代表の前田満樹さんにお願いしたいと思います。

改めて前田さんのご紹介ですが，前田さんは，「広島から元気パワーを発信！」というのを合い言葉に，広島県内外をリレー形式で開催する音楽ライブ「広島ミュージックジャンボリー2012」の実行委員会の代表を務めていらっしゃいます。

今年で３年目だそうですけれども，年々参加するバンドの数も増えて，開催地も，愛媛，そして，山口でも開催されるということで，広島からの元気パワーが広がっているということです。

今日の発表のテーマは，「音楽の力で広島から元気パワーを発信しよう！・・・大竹発」です。それでは，前田さん，よろしくお願いいたします。

事例発表①

（事例発表者（前田））

皆様，こんにちは。広島ミュージックジャンボリー代表の前田満樹と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は，「メローイエロー」というグループで，なつかしいフォークソングを歌っています。主人がリーダー，ギター，ボーカル，私もボーカル，ほかのメンバーも大竹在住のメンバーで構成しているグループです。私たちは８年ぐらい前からそういう活動を始めています。こういうふうにお客さんに来ていただいた中で，私たちが歌を一方的に投げかけるのでは

なくて，そこに来てくださっているお客様と一体感が持てるというか，すごく違う空気というか，そういうものを感じるようになってきました。こういうものをもっとパワーにして生かすことができないかと思い始めて，そして，2007 年にこういうことを大竹でやってみたいと思い，大竹会館主催でメローイエローの単独ライブを始めました。私たちは全然有名ではありませんし，どこかからオファーがかかるほどすごいグループではありませんが,それでも 180 名ぐらいの方が集まって来てくださいました。ミュージックジャンボリーをやってみて，もっともっと皆さんと一緒になれる気が高まってきたので，2009 年に広島ミュージックジャンボリーの今の前身である「ミュージックジャンボリーin 大竹」というのを開催してみることにしました。そうしましたら，このときは 300 名以上のお客様が来てくださり，そのときは３時間ライブをしたのですが，最後まで皆さん帰らないで，30 分はみんなで歌おうと，sing out，わーわー歌って終わったのですけれども，そのときにアンケートをさせていただいた中で，とっても楽しかった，こういうのが大竹でやっていただけるのなら，もっとやってほしいと，いろいろなお話がたくさんびっちり書いてあって，また来てくださいと。私は大竹に住んでいるのですが，誰も知りませんので，また来てくださいというふうに言っていただいて，また来てくださいということは，やっても大丈夫かなというふうな気持ちを，そのときに確信みたいなものがありまして，大竹でこういうことができたのであれば,もっと広島県内,いろいろなところで音楽活動をしていらっしゃる方は，いろいろ個々にはいらっしゃるのですが，そういう人たちと一体になって音楽活動を通して広島の元気パワーを発信することができないかと思い，それをやってしまおうということで，この大竹で開催したものを励みに，2010 年に広島ミュージックジャンボリーというのを開催しようと思い至りました。そのときには，広島ミュージックジャンボリーをやりましょうと言っても，これに賛成してくれる人がそんなにたくさんいるわけではないので，ミュージックジャンボリーをやりたいよと言って，音楽仲間の人たちに声をかけて，その中で不承不承というか，あんまりやりたくないなという感じで５人ぐらい集まっていただいたところからのスタートでした。そういうのを開催しまして，音楽の力で広島県を元気にしよう。すごく大げさですけれども，広島県を元気にしようということで，自主的に参加の実行委員を募りまして，お客様も，出演者も，それから実行委員もすべてが広島ミュージックジャンボリーを動かすサポーターと位置付け，１コイン 500 円，こういう「サポーター証」なのですけれども，この 500 円のサポーターになっていただくことをお願いして，集めて，これを開催資金にしました。毎年 500 円のサポーターを集めているのですけれども，大体 1000 名以上の方がなってくださっています。今日来てくださった中にもサポーターになってくださっている方はたくさんいらっしゃると思うのですけれども，サポーター金ですから，そんなにたくさんのお金ではないのですが，でも，こういうのを集めて,もっともっと皆さんに参加していただきたいという願いで,この 500 円サポーターで開催するようになりました。

2010 年のときには，あそこに書いてありますけれども，９月 11 日から 10 月 10 日まで，108 組，250 名以上の方が参加していただきました。もちろん広島県だけではなくて，東北，関東，関西，いろいろなところからホームページを通じて応募していただいたグループが 108 組ということですので，私たちも初めて開催して，たくさんの人たちに来ていただいたなと喜びました。第１回目を開催することができたのですが，これはやっぱり続けていかなければいけないということで，その次の 2011 年にも広島ミュージックジャンボリーの開催を進めていこうということで，年が明けたらすぐに実行委員会を開いて進めていきました。ところが，３月，皆さんご存じのように東日本大震災がありました。そのことを目の当たりにしたときに，私たちはこんなライブ活動を開催していいのだろうかと内心思ったのですが，実行委員会で話しあったときに，元気なものは元気を発信し続けていかないとだめなのではないかとみんなの意見が一致しまして，今年も開催しようと決めました。実は 2010 年に出演してくださった宮城県の人が，本当に被災されていまして，2011 年にも絶対に来るよと言われていたのに参加できなかったのです。だったら，私たちもそれを応援していこうじゃないかということで，開催しましょうということを決めたのですが，そのころ，福島に住んでいらっしゃるミュージシャンの方からお電話をいただいて，広島ミュージックジャンボリーというのを聞いてはいたけれども，自分たちはこういうことがあって，福島は特に風評被害がひどくて，福島をみんなが嫌いになってしまわないか，嫌いになってしまわれたら嫌だなと，これがとっても悲しいことなんですよとお電話をいただいたときに，私たち広島は原爆が落ちて，何十年も草木が生えないと言われていたけれども，今は立派なすばらしいまちになって，みんな一生懸命元気に頑張っていますよというお話をさせていただいたときに，じゃあ，その復興したすばらしい広島を見て，反対に元気をもらって帰ろうということで，福島の方も含めて，2011 年には参加をいただいております。今年も来ていただくようになっております。

広島県内，このときも 10 カ所で 120 組，320 名以上の方が応募してくださり，こういうふうに広島県内いろいろなところで開催しますので，またいろいろな人とつながりができてきます。そういうことを 2011 年は始めました。私たちも応援していきたいということだったので，広島ミュージックジャンボリーでは東北を応援していこうということで，東日本大震災を応援していこうということもコンセプトに加えて，去年も応援してきましたし，これからも何らかの形でこの応援していく気持ちを忘れないで続けていきたいと思っております。

広島ミュージックジャンボリーは，私たちがいろいろなところで開催しているのですけれども，開催だけではなくて，これを知っていただくためにいろいろなところで告知活動というのをしております。開催する場所以外でも告知ライブというのを開催して，皆さんに知っていただくのですが，それも含めて，こういう「ミュージックジャンボリー＠はつかいち」という番組を持ったり，お金はないのですが，ユーストリーム配信とか，フェイ

スブックなどを立ち上げ，広く県内外，大げさにいうと世界中に向けて広島というのをアピールして発信していこうと，今いろいろと頑張っております。

大竹でこれは始まったわけですけれども，今は広島県にずっと広がっていっています。今年広島ミュージックジャンボリー2012というのが開催予定ですが，広島のパワーが，なんと愛媛と山口県に飛び火しまして，広島ミュージックジャンボリーなのに，愛媛県で２カ所，山口県で１カ所開催することが今年は決まりました。それは，昨年とか，一昨年に参加してくださった方々が広島に来られて，とてもよかったので，是非これを愛媛，山口に持って帰りたいということで，今年は県外に飛び出してこういう活動が広まってきました。多分もっともっといろいろなところで開催になってくるのではないかと思っております。一番初めは広島を元気にしよう！だったのですけれども，今は「広島から元気を発信しよう！」ということで，いろいろなところに広島パワーを発信していきたいと思っております。

広島ミュージックジャンボリーのこういうものもつくったのですけれども，実行委員というのはお金をいただいているわけではなくて，みんながやりがいを求めて集まってきているものですから，そういう人たちがいろいろなものをつくって発信してくださっています。

広島ミュージックジャンボリーは何だろうと思われると思うのですが，ノージャンルといって，いろいろな音楽をやりますので，フォークですよ，ロックですよ，歌謡曲ですよという垣根がないのです。だから，いろいろなジャンルの人が歌ったり，演奏したりしますし，聞きに来る人も，自分が好きなジャンルだけではなくて，違うものを聞くチャンスもあるということで，一つの会場で10組ぐらいの方に出ていただくので，多分どこに行っても，いろいろな音楽を聞くことができるチャンスがあると思うので，是非出かけて来てくださったらと思います。無料ですので，皆さんに楽しんでいただける音楽を展開できると思います。

これは，今年の広島ミュージックジャンボリーの曲です。毎年イメージソングというのを募集して，今年は「よもぎ」さんというグループが歌った曲が選ばれました。毎年新しい曲でスタートしております。

今年も12会場で開催しますが，皆さん，県外とか，いろいろなところから来られるので，広島県に宿泊して，広島のおいしいものを食べて，おみやげも持って帰って，そして，楽しかったよというお話もずっと広げていただいているということで，だんだん応募者が増え，今年は154組ぐらい応募がありまして，127組出演できる場所をいろいろと確保したのですけれども，すべての方に出ていただくことはできなかったので，それは残念なのですけれども，いろいろな方に参加していただいて，ますますパワーアップした広島ミュージックジャンボリーになって，来年はもしかしたらもっともっと違う県に飛び火していくのではないかと思っております。

最後になりますけれども，ここ大竹から始まった広島ミュージックジャンボリーなのですけれども，今度は広島ミュージックジャンボリーを生かして，大竹に力を貸してもらって，大竹発の新しい企画ができないかと思って，今，私は「OH!バンブー倶楽部」という，大竹というのを英語で「OH!バンブー倶楽部」というのを発足しまして，何もないなら，新しいものを大竹からつくりだしていこうということで，楽しいことを企画する倶楽部をつくりました。これはまだまだ発足したばかりなので，今後のチャレンジということで，来年に向けて頑張っていきたいと思っています。今，来ていらっしゃる大竹市民の方が参加できる参加型のイベントを企画しておりますので，そのときは皆さんに是非お声をかけますので，参加していただけたらと思っております。大竹市からまた新しいことを考えて，発信して，楽しいことを進めていきたいと思います。

駆け足で，早口でしゃべりましたが，広島ミュージックジャンボリーのお話をこれで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

（知　事）

前田さん，ありがとうございました。最初は仲間というか，メローイエローでステージをやろうというところから始まって，大竹でやって，それが広島全体になって，今や山口，愛媛も入ってきたという成長の過程をたどっておられるのですけれども，ちなみに，前田さんは音楽がご本業ではないですよね。

（前　田）

そうですね。本業ではないですね。趣味です。

（知　事）

ご本業は何かお伺いしてもいいですか。

（前　田）

本業はデザインの仕事をしています。

（知　事）

それで，ポスターのデザインなども。

（前　田）

それは，実行委員の中でやられる方が集まってきているので，それはまた皆さんそれぞれでやっていただいているのです。あまり本業を生かしていないのです。

（知　事）
そうなのですか。でも，さすがにステージ慣れをされているなという感じはしました。

（前　田）
歌うのとしゃべるのはちょっと違うのですが。

（知　事）
そんなことないです。僕が感じたのは，最初，メローイエローのステージをやろうというところで，音楽をやっている人というのは，ステージをやってみたいと思うものなのですけれども，僕も音楽を昔やっていたものですから，そう思うものなのですが，それを大竹でやろうと。みんなでやろうと。やってしまおうと一言お話しされていたのですけれども，それはどこから来たのでしょうか。

（前　田）
本当はコンセプトがあってとか，先はこうなってとか，普通はいろいろあると思うのですけれども，あまりそういうことを考えなかったのです。それはなぜかと言ったら，結局，やってしまおうということをいろいろ頭で考えるとできなくなるということと，やっていきながら，いろいろな道を模索して考えていこうというのが私のスタンスなのかもしれません。それと，できるときが来年とは限らない。３年後とは限らない。そんなに若くないですから，急に明日元気がなくなるかもしれない。とにかくできることを進めていくことで考えていき，皆さんを巻き込んで，楽しいことをやっていきたいなというのがあったのです。だから，何年後になったらできるとか思うと，多分できなかったのではないかと思っております。

（知　事）
できることをやろうと。巻き込んでいこう。今の二つの言葉はすごく大事なことだと思います。できることをやる。実際にやる。やってみると，大竹でやったときは，何組だったかメモをしなかったのですが，第１回の広島ミュージックジャンボリーになったときには，なんと 108 組も来られて，第２回も 120 組来られて。

（前　田）
今年が 127 組です。

（知　事）
ただ，150 組応募があったんですよね。150 数組ね。

（前　田）
そうですね。はい。

（知　事）
そうやって，やってみよう。やってみたらいいじゃんと，どんどん輪がひろがる。やることの大事さ。考えているだけでは何も動かなくて，やったら，こんなに広がっていく。しかも，山口，愛媛まで広がっていく。そのうち広島ミュージックジャンボリーin 大竹ではなくて，日本ミュージックジャンボリーin 広島と。

（前　田）
それを企ててはいるのです。で，大竹から発だったと。

（知　事）
「in 広島」,「in 大竹」みたいなね，どんどん広がっていく。一歩前に出て，やってみることの大事さ。それで，人を巻き込んでみようというところの大事さ。それによって，どんどん拡大していく。行政は全くノータッチでしょう。

（前　田）
そうですね。後援だけはいただいていますけれども。

（知　事）
後援だけはしているけれども，行政ノータッチで，仲間を集めるために皆さんが汗をかいて，広報のためのコンサートなどもいろいろやったり，ＦＭに行ってやったり，そういう自分たちの力で拡大をしていく。

（前　田）
そうですね。実行委員が初めは４名が，今は 30 名ぐらいいるのです。

（知　事）
すごいですね。

（前　田）
その人たちが，自分たちのやりがい，ミュージックジャンボリーを自分たちのものだというふうにやっていっているのが成功の秘訣かと思います。私のためにやるのではなくて，

それぞれがそこに目的意識を芽生えさせて，それでやっていくということで続けていけるのではないかと思います。

（知　事）

そうですね。この前田さんの最初にやってみようという気持ちが，今や150組のミュージシャンの皆さんと，それから聞きに来られる方もきっとたくさんいらっしゃると思いますが，その人たちみんなを幸せにしているということだと思います。本当にやってみることの大事さを教えていただいたのではないかと思います。前田さん，本当にありがとうございました。皆さん，もう一度大きな拍手をお願いします。ありがとうございました。

（前　田）

ありがとうございました。

（知　事）

次は，大竹市女性消防団の薄加代子さんでいらっしゃいます。ご一緒に，西村文子さん，石津洋美さん，竹中朱美さん，そして，永見京子さん，お願いいたします。

大竹市女性消防団は，平成18年に発足したということです。試行錯誤の活動を繰り返して，現在では消防団にとって不可欠の存在となっていて，子どもたちに防火紙芝居の実演をするなど,火災や災害予防について広報活動や,一人暮らし高齢者を訪問するなどサポート活動を行っていらっしゃいます。

今日の発表のテーマは，「安心なまちづくりに向けて私達ができること」です。それでは，皆様，よろしくお願いいたします。

事例発表②

（事例発表者（薄））

皆さん，こんにちは。私は大竹市女性消防団本部付け部長の薄加代子と申します。よろしくお願いいたします。

本日は，大竹市女性消防団の女性団員の活動や，今後いつ起こり得るか分からない地震，自然災害の心構えとか，今から準備していたほうがいいと思うこと，私が常に感じていることを今日ここでお話ししたいと思います。よろしくお願いいたします。

わがまち大竹市の女性団員は，平成13年7月に，管内山間部の消防防火体制の充実を図るために，今の山間部栗谷地区に発足しました。現在は，男手が手薄となります昼間の初期消火活動を実践する山間部，先ほど申しました栗谷地区，それから平成21年島嶼部，阿多田地区に発足しました。私たちが所属する大竹市女性消防団本部には，平成18年11月

に，当時メンバーは 13 人いました。栗谷地区も阿多田地区も，ともに高齢者一人暮らしの防火指導も行っております。

実践舞台の栗谷地区，阿多田地区は，皆さん，ご存じかと思うのですが，災害とか火災があったときに，消防署に通報しても時間がかかりますので，初期消火活動，事前に災害を防ぐため，身の安全のため，少しでも助けになるよう，そのための女性団員が発足されています。

私たちは，栗谷地区，阿多田地区と同様に，高齢者一人暮らしの防火指導を行っております。また，有事の際は，消火活動団員への後方支援，春と秋の火災予防週間での広報の呼びかけ等を行っております。そして，今日は，私たちが一番手掛けています活動として，保育園に出向きまして，防火紙芝居を園児たちに見てもらっております。発足当時は，女性団員である私たちに何ができるか，右も左も分かりません。どうしていいかも分かりません。ただ，悩み，苦しみ，どうしたらいいのかという思いでした。タイトルの言葉のように，安心なまちづくりに向けて，私たちができることは，幼児のときに火災のおそろしさを身にしみて教えてあげられたらと思い，紙芝居の作成に取りかかりました。高齢者に対しては，発足した当時，一人暮らしの家庭を訪問した際に，作成したステッカーを対象者の方に配ってあげました。また明くる年に，ステッカーが張ってあるのを見ると，やっぱりやってよかったなという感想を覚えました。

すみません。あがっていますので，申し訳ないです。本日は，私たちが一生懸命やっている活動の中での紙芝居を，子どもたちのために手づくりした紙芝居を実際に見ていただきたいと思います。配役としては，声の出し方を工夫しながら練習してきました。お父さん，お母さん，本人，今回の手づくりの紙芝居は，大竹市の竹をとって「たけこちゃんとくまくま」という題で紙芝居を行いたいと思います。皆さんも幼児になったつもりで見ていただけたらと思います。今から紙芝居を実演したいと思います。

（事例発表者（石津））

皆さん，こんにちは。部長がちょっと上がっていまして，ここでちょっと元気をみんなに持ってもらいたいと思います。皆さん，こんにちは。今から手づくりの紙芝居をする前に，アンパンマンの手遊びをやってみたいと思います。みんな，アンパンマンはほっぺがあります。ほっぺをつくってください。今日のお友達はどうかな。みんなできているかな。いきますよ。アンパンマン，パトロールするときは，みんなの平和を願いつつ，勇気と力を蓄えて，アンパンマンじゃないよ，バイキンマンをやっつけろ。アンパーンチ。今日のお友達は，なんだか元気がありません。元気を出してください。

今度は，消防団の手遊びをしたいと思います。消防団は敬礼をします。今のお歌でやってみます。みんなもできたらやってください。元気がないですよ。いいですか。消防団パトロールするときは，みんなの平和を願いつつ，勇気と力を蓄えて，怖い火事を消します

よ。ホースでシュー。やっぱり今日のお友達はみんな元気がありません。どうしちゃったんでしょう。でも，楽しい，じゃないですね，紙芝居を見てください。始まり，始まり。拍手がないよ。

全員：「たけこちゃんとくまくま」

ナレーション：皆さん，こんにちは。ここは大竹のまちです。このまちにたけこちゃんという，とてもかわいい女の子が住んでいました。たけこちゃんの家族は，お父さん，お母さん，たけこちゃんの３人家族です。今日はたけこちゃんの５歳のお誕生日。

父母：ハッピーバースデイ トゥー ユー，ハッピーバースデイ トゥー ユー，ハッピーバースデイ ディアたけこちゃん，ハッピーバースデイ トゥー ユー。

父：たけこちゃん，お誕生日おめでとう。

母：たけこちゃん，これは，お父さん，お母さんからのプレゼントよ。

たけこ：わー，うれしい。うれしいわ。何かしら。

ナレーション：たけこちゃんはプレゼントの箱をそっとあけてみました。すると，中からかわいい熊のぬいぐるみが出てきました。

たけこ：わー，かわいい。くまさんだ。前からほしかったぬいぐるみだ。お父さん，お母さん，ありがとう。大事にするね。

ナレーション：大喜びのたけこちゃんは，ぎゅっと熊のぬいぐるみを抱きしめました。たけこちゃんは，このぬいぐるみに「くまくま」と名前をつけました。

たけこちゃんとくまくまは，どんなときにも，いつも一緒でした。くまくまは，たけこちゃんに抱っこしてもらったり，自転車に乗せてもらったりしました。そして，食事のときにも，

たけこ：くまくま，ここに座ってね。

ナレーション：とたけこちゃんの隣に座っていました。もちろん，夜寝るときも一緒です。

たけこ：くまくま，今日も１日楽しかったね。くまくまはどんな夢を見るのかな。くまくま，おやすみ。

ナレーション：そんなある日のこと，たけこちゃんは机の上に置いてあったお父さんのライターを見つけました。

たけこ：あっ，ライターだ。お父さん，忘れちゃったのかな。触ってみようかな。だめだめ。ライターは子どもが触るものではないよって，お父さんが言っていたから。でも，１回くらいならいいかな。１回だけよ。

全員：ぼっ，ぼーっ。

ナレーション：大変。たけこちゃんは，ライターで火をつけてしまいました。

たけこ：あー。

ナレーション：あっという間に，ライターの火はそばにあった紙に燃え移って，大きな炎になっていきました。たけこちゃんのお家は火事になってしまったのです。たけこちゃんと，くまくまは，大丈夫だったのでしょうか。

たけこ：くまくま，くまくまー。

ナレーション：いつも一緒だったくまくまも，火事で逃げている間に，離ればなれになって，分からなくなってしまいました。

たけこ：くまくま，くまくまー。

ナレーション：たけこちゃんは悲しくて悲しくて涙がとまりません。

うーうー，うーうー，すぐに消防自動車がかけつけました。ホース用意。よし。準備完了。よし。火をめがけて，水をかけろ。よし。かかれ。よし。

消防署のおじさんが一生懸命に火を消してくれました。火は消えました。

消防署員：このぬいぐるみは君のかい。

たけこ：あっ，くまくまだ。おじさん，見つけてくれて，ありがとう。あー，よかった。おじさん，火遊びをしてごめんなさい。これからは，火遊びは絶対にしません。本当に約束します。

消防署員：火はとても怖いものなんだよ。たけこちゃんだけのものじゃなくて，みんなの大切なものがなくなってしまうんだ。一番大切な命だって，なくなることだってあるんだよ。子どもが火で遊ぶことは絶対にいけないよ。分かったかい。

たけこ：はい。分かりました。本当にごめんなさい。もう絶対に火で遊んだりしないよ。

ナレーション：たけこちゃんは，消防署のおじさんと火遊びは絶対にしないと大切な約束をしました。みんなも，火で遊ぶのはやめようね。

全員：約束だよ。おしまい。

（　薄　）

いかがだったでしょうか。この紙芝居を保育園に出向いて行ったとき，目がきらきらと輝くように集中して見入ってくれました。そのときの感激は，本当にやってよかったと新たに思いました。今回，この紙芝居は，火災について，子どもたち向けに作成しましたけれども，現実問題，自然災害，集中豪雨で多くの人の命が失われています。今まで何不自由なく過ごしていた私たちが，災害，また火災で一瞬のうちに何もかもがなくなる事態が少しずつ忍び寄ってきています。地域によっては，大雨で家が流され，最愛なる人を失うことも現実に起こっております。地震で，津波で，生活する上ですべてのものがなくなっていきます。これも現実になり得ます。私たち女性団員ができること，それは，けがをしている人を助け，高齢者の方を安全なところに誘導する。そして，被害があった建物など，片付けなどが挙げられます。いつまでも安心して暮らせるまちでいたい大竹市ですが，私からのお願いです。皆さんの一人一人の心構え，身構えで，火災はみんなの力で火を消す。

大雨が降って，避難する際，隣近所に声かけをし，危ないところから逃げてください。地震では，日ごろから非常用持ち出し袋への確認をしてくだい。先日，私は家でテレビを見ていました。そのときに，地震災害の専門の先生が言われていたことを思い出して，今，皆さんにお話ししたいと思います。救援物資が届くのにかなり時間がかかるそうです。一人当たり３日分よりもより多くの物資を準備してくださいとのことでした。そして，飲料水も各家庭の人数分よりも多めに集めてください。お米は無洗米で，缶詰，レトルト食品や簡易トイレを準備しているといいそうです。それから，私たちは消防団員ですが，限られたことしかできません。あれもこれもできますとは言えませんが，実際にどれだけできるかも分かりません。でも，微力ではありますが，できる限りの手助けや日ごろの高齢者，また幼児，隣近所に声かけは心がけたいと思っております。

また，災害がないことを願って，笑顔で過ごせる毎日でありたいと思います。そして，生き抜くために，各自治体単位でしっかりと知識を身に付けたいと思います。災害が発生した際は，誰もが先行き不安になりがちですが，復興を事前に考えて，各自治体で話し合いを持ちましょう。大竹市を，自分の命は自分で，自分たちで守るという気持ちで，皆さんも身の回りの地域の組織をつくり，連帯意識を高めていただきたいと思います。何事も備えあれば憂いなし。昔のことわざどおり，日ごろの心がけや地域，近所との交流が大切だと思います。安心なまちづくりを皆さんと一緒に，私たちも精一杯頑張りたいと思います。ご清聴ありがとうございます。

（知　事）

薄さん，また，消防団の皆さん，本当にありがとうございました。今，消防団のメンバー自体が不足している状況の中で，実際に消防団に参加をいただいているというだけで，心から僕は敬意をあらわしたいと思うのですけれども，さらに，こうやっていろいろな教育・普及に励んでいただいているということで，ちなみに，最初に手遊びをしていただいた方はどなたでしたか。石津さん。石津さんはもともとのご職業は何ですか。

（　薄　）

保育士さんです。

（知　事）

なるほどね。だから，上手なんですね。それぞれの特技をこうやって応用して，幼稚園児にはとても分かりやすい紙芝居だったと思うし，最初の手遊びはすごく引きつけられると思うのです。そういう工夫をされながらやっていらっしゃると思うのですけれども，冒頭おっしゃっていたように，何ができるか。皆さん，それぞれ普通のご職業を持っておられ，消防員としての訓練はもちろん受けていらっしゃいますけれども，もともとそれがプ

ロであるわけではなくて，普通の主婦の方であったり，それこそ保育士さんだったり，普通の職業を持っておられる方ですけれども，そういう皆さんの中で何ができるか。どうしたらいいか。そして，できることはいっぱいあるのです。子どもたちにこういう教育をするのは本当に大事なことだと思います。それを，できることをやる。できることを，しかも一生懸命やるということで，すごく大きな違いを生んでいるのではないかと私は改めて感じました。限られたことしかできないとおっしゃっていましたけれども，でも，その限られたことが，一つ一つ大きなことだと思いますし，皆さんがそれぞれ別々にそれぞれできることを例えば地域のためにやられたら，これは地域全体で大きな力になっていくのではないかと改めて感じました。本当にご苦労様でございました。それでは，パフォーマンスも含めて，大変すばらしいプレゼンテーションをしていただきました，また，活躍をいただいております大竹市女性消防団の皆様に，もう一度大きな拍手をお願いいたします。なかなか絵もプロ並みで，かわいい女の子とくまくまで，よかったですよね。

それでは，続いて広島県立大竹高校３年生の福田千帆さんと山根江利果さんにお願いしたいと思います。福田さんと山根さんをはじめとする大竹高校商業科の皆さんは，通学路にありますスペイン通りを活性化するために，通りの一角にある交流サロンで，商品選定から広報，またレジ打ちまですべて自分たちで企画をして，販売実習を行っていただいたということです。

今日の発表のテーマは，「Hot place 夢の懸け橋～私たちの“大竹大好きプロジェクト”～」です。それでは，福田さん，山根さん，どうぞよろしくお願いします。

事例発表③

（事例発表者（山根））

お願いします。「Hot place 夢の懸け橋～私たちの“大竹大好きプロジェクト”～」の発表をします。大竹高校３年の山根です。

（事例発表者（福田）

同じく３年の福田です。

（山　根）

私たちは大竹市で生まれ，大竹で育った，大竹が大好きな２人です。大竹をもっと知ってもらいたい。もっと大竹を好きになってもらいたいと日ごろから考えています。

昨年の 11 月，大竹市役所から大竹駅周辺がどんなふうに変わったらいいか，高校生の意見を聞きに来られました。私たちは，東西連絡通路の設置や駅周辺の照明を明るくするこ

と，コンビニやファミリーレストランがあったらいいのではないかと答えました。

そこで，いろいろな年代の方が集まれる場所をつくってみようと思いました。場所は，毎日通学路として使っているスペイン通りです。早速２月にシルバー人材センターの交流サロンで専門高校生などが商品を開発，生産する商品を仕入れ，販売しました。日ごろの勉強を生かして，チラシの作成，ケーブルテレビでのＣＭ作製にとりかかりました。中国新聞で紹介をしていただいたり，地域の多くの方に購入していただき，「次はいつやるの」「頑張って」など応援してもらって，本当にうれしかったです。また秋に販売実習をしたいと思っています。

４月 28 日には，大竹市の呼びかけで，伝統を守っておられる大石先生から，大竹手すき和紙手描き鯉のぼりのご指導をしていただきました。フリーハンドで鯉の模様を描き，思っていたより難しかったですが，楽しみながら大竹の伝統について考えることができました。

これを機に，大竹のことを知りたいとアンケートを実施しました。本校の商業科目を学ぶ生徒，市内の事業所，商工会議所，教育委員会関係者の皆さんから回答をいただきました。アンケートの一部をご紹介します。

一つ目の項目は，お奨めする，誇ることができるものである伝統工芸，技術の項目に注目しました。１位に手描き鯉のぼり，22.1%，２位に手すき和紙，21.0%，多くの方が大竹の誇ることができる，お奨めするものとして回答されています。

（福　田）

二つ目は，今後大竹高校生にどんなことを期待しますかという質問で，販売実習 28.5%，地域と協力した商品開発 23.3%などが挙げられました。このようなアンケート結果から，私たちが着目したのは，地域と協力した商品開発です。

大竹地域で「こいこいバス」や「こいこいまんじゅう」などがあり，「こいこい」というフレーズが浸透しており，「こいこい」ときたら「大竹」とイメージしてもらえるようになればいいと思ったからです。

そこで，私たちが考えたのは，「こいこいキャンデー」です。大竹の手描き鯉のぼりを飴にすることを考えました。実際に当たってみると，製造原価はこのようになりました。

販売方法やターゲットなども検討しています。まだアイデアの段階ですが，この企画に乗っていただける方はいませんか。是非ご協力ください。ご協力いただける方を探しています。私たちと飴をつくってみませんか。

地域の方々に協力していただき，多くの方と接することで，たくさんのことを学び，楽しみながら学習しています。これからもいろいろなことにチャレンジし，もっと多くの人に大竹を好きになっていただけるように頑張っていこうと思います。これで私たちの発表を終わります。ありがとうございました。

（知　事）

ありがとうございました。さわやかなお二人にプレゼンテーションしていただきました。ラブ大竹という感じですよね。あらわれていると思いました。ちょっとここでお二人にお伺いしたいのですけれども，３年生で，そろそろ次の進路を考えていらっしゃるのではないかと思うのですけれども，将来，広島県に住みたいですか。

（山根・福田）

はい。

（知　事）

ありがとうございます。去年，高校生が出てきたときに聞いて，大体五分五分だったのです。一人か二人かぐらい，ちょっと勝ったのかな。今日２人イエスと言ってくれたので勝率が上がりましたけれども，スペイン通りの活性化とか，あと手描き鯉のぼり，すみません，不勉強で，僕は今日初めて手描き鯉のぼりのことをお聞きしました。とてもすてきな鯉のぼりで，それを使った飴をつくって，「こいこい」を広げるというのもすばらしいアイデアだと感じました。これも大竹，こいこいというか，ラブ大竹のあらわれかなと思います。頼もしい高校生お二人にもう一度大きな拍手をお願いいたします。ありがとうございました。

次は，最後の発表になりますけれども，大竹中学校生徒会の皆さんです。今日は４名来ていただいています。亀谷麻巳子さん，尾崎航太くん，村中文香さん，そして森田美樹さんです。どうぞ前へ出てきてください。

大竹中学校生徒会では，先輩たちが築いてきた「明るく」「行事に燃える」という校風をしっかりと引き継ぎながら，昨年から生徒会が呼びかけて，地域での清掃活動や「あいさつ」を足を止めて自分から行う取組などを実施されています。

ちなみに，さっき高校生２人のアンケートの中の「期待すること」というのに，「地域の清掃活動」というのがすごく高いところにあったと思ったのですけれども，その清掃活動をやられているということですね。

今日の発表のテーマは，「挑戦し続けること」です。それでは，亀谷さん，尾崎くん，村中さん，そして森田さん，どうぞよろしくお願いします。

事例発表④

（事例発表者（亀谷））

気をつけ。礼。お願いします。

私たちは，大竹市立大竹中学校生徒会執行部です。会長の亀谷です。

（事例発表者（尾崎））

副会長の尾崎です。

（事例発表者（森田））

書記の森田です。

（事例発表者（村中））

学級委員長の村中です。

（亀　谷）

どうぞよろしくお願いします。

今日の私たちの発表「挑戦し続けること」は，今まで生徒会執行部として私たちが挑戦してきたことや，今，感じていることをまとめたものです。大竹中学校は変わったとたくさんの人が言ってくれます。あいさつと，掃除と，地域とのつながりを中心とした私たちのチャレンジを見てください。ＶＴＲスタート。

（尾　崎）

大竹中学校は行事に燃える熱い気持ちを持った人が多い学校です。どの行事も，みんなの一生懸命が輝き，とても感動的なものになります。そんな大竹中学校の「日ごろからもっとすばらしい学校にする」，それが私たちの挑戦です。生徒総会では，その実現に向けて具体的な取組を話し合い，決定しました。

一つ目の取組は，「一丸あいさつ」。自分から立ち止まって，笑顔であいさつをします。これを学校全員が一丸となって取り組みます。【挨拶風景】

（村　中）

授業のあいさつも，すべてのクラスから大きな声が聞こえてきます。【授業開始風景：気をつけ。礼。お願いします。】

二つ目の取組は，「やりきり清掃＋α」です。３年生がリーダーとなり，１年生から３年生までが力を合わせて，15 分間の掃除を無言でやりきります。大竹中が変わったと言われますが，一番大きく変わったのは，この毎日の掃除だと思います。【清掃風景】

生徒アンケートでも，大竹中は，あいさつ，掃除がいい学校だと感じている人が 90％を越しました。今年はもっと高くなっていると思います。

三つ目の取組は，「地域とつながる取組」です。中でも大竹クリーン活動，ＯＣ活動は，

全校生徒の９割以上の人がボランティアで参加してくれます。地域の方から「ありがとう」と言っていただくこともあり，とてもさわやかな気持ちになります。

（森　田）

今年はＯＣ活動に合わせて，ストーンアートの普及も行いました。

また，大竹高校の先生方や生徒会執行部の皆さんと一緒に，駅前に花を植える活動にも参加させていただきました。

地域での活動は，さわやかになることがとても多く，これからもどんどん活動を広げていきたいと思います。

【執行部会風景】

亀谷：それでは今年の文化祭のテーマは，「一歩の勇気，輝くための出発点」に決定でいいですね。

全員：はい。

亀谷：では，これを村中さん，学級委員会で全校に伝えてください。

村中：はい。

亀谷：以上で執行部会を終わります。気をつけ。礼。ありがとうございました。

全員：お疲れ。

村中：ところで，私たち執行部もあと半年だね。

尾崎：早いよね。

学生：今年の文化祭も最高に心に残るものにしたいね。

全員：うん。

尾崎：ところでさ，今年の生徒会スローガンはPROGRESSだけど，大竹中は進歩しているのかな。

学生：それはしているでしょう。

学生：先生方も，ここ数年で大竹中はすごくよくなったと言ってくれるしね。

学生：そうじゃね。

村中：でも。

学生：どうしたん，文香。

村中：この前，校長先生が朝会でおっしゃっていたでしょう。大竹中生徒はまだまだできるって。

尾崎：ああ，そういえば，今までたくさんのことに取り組んできたけど，最近あまり挑戦していない気がする。もっともっとよくなろうという気持ちが弱くなっている気がする。

学生：なるほど。挑戦する気持ちを持ち続けることって大事だね。じゃあ，気合いを入れ直そう。

学生：大竹中生徒はまだまだ伸びる。もっともっと心から誇れる学校になる。

全員：私たちは挑戦し続けよう。

（森　田）

私たち執行部の挑戦はあと６ヵ月。大竹中学校みんなの可能性を最大限に発揮できるように，私たちは挑戦し続けます。今日は私たちの発表を最後まで聞いてくださり，ありがとうございました。

（知　事）

ありがとうございました。今日，中学校を訪問させていただいたのですけれども，僕が行ったら，そのときにクラブ活動をされていた生徒さんみんなが一列に並んで拍手で迎えてくれました。

中学生，みんなしっかりしていますね。どうでしょうか。頼もしいですよね。いろいろな活動に携わっていて，きちんと挨拶ができるとか，掃除をきっちりやるとか，大人の僕が見ていても，こっちがだんだん小さくなりそうな感じがするぐらい，本当にすばらしいと思いました。これも一つ一つそれぞれができることをするということではないかと思います。中学生は中学生らしく，それこそ自分たちの学校を掃除したり，先輩から引き継いだストーンアートを補修したり，もちろん挨拶をきちんとしたり，そういうことの一つ一つの積み重ねがいい学校をつくっていっているのではないか。だからこそ，清掃活動なども，これは強制ではなくてボランティアということだと理解したのですけれども，90 何パーセントのみんなが参加してくれる。普通は，集団の中でははすに構える人たちはいると思うのですけれども，学校でもそうだと思いますけれども，そういうことを言う子がほとんどいないという，そういうすばらしい学校になっているのではないかと思います。それをつくっているのは，もちろん先生の指導もあると思うのですけれども，生徒のみんなそれぞれがやっぱりその気にならないと，そういうふうにはならないと思うので，生徒会で頑張ってくれています亀谷生徒会長，尾崎副会長，村中学級委員長，森田書記，４人に改めて大きな拍手をお願いいたします。ありがとうございました。

（司　会）

ありがとうございました。以上で予定の事例発表はすべて終了となります。

閉　　会

（司　会）

ここで湯﨑知事に本日のまとめをお願いいたします。

（知　事）

ありがとうございました。事例発表をしていただきました皆様，本当にありがとうございました。また，会場で最後までおつき合いをいただきました皆様，本当にありがとうございます。

今日は，皆様のすばらしい活動，挑戦をそれぞれお話しいただきました。こうやって皆さんに共有していただくのは,すごくいいことだと思うのです。地域それぞれで実際にやっておられるわけです。皆様もお感じいただけたのではないかと思うのですが，職場であるとか，地域であるとか，あるいは学校であるとか，いろいろなグループがあると思いますけれども，その中でできる力はそれぞれ違います。また，やるべきことも多分いろいろ違うと思うのですけれども，それぞれの中で少しでもいいことをやる。あるいは，本気になってやる。さっきの生徒会の皆さんみたいに，あるいは中学校の皆さんみたいに，本当に丁寧に挨拶をする。一つ一ついい加減ではなくて，頑張ってやってみる。そういった小さなことの積み重ねが，本当に社会全体には大きな変化をもたらすのではないかと感じます。消防団の皆さんもこうやって頑張っていただくおかげで，子どもたちから防火の教育が普及できるということにつながっていると思います。

今，広島県では，広島県の 10 年後を見据えた「ひろしま未来チャレンジビジョン」というのをつくりまして，政策の展開をしています。県としても，もちろんいろいろなことをやっています。ただ，実際に社会を変えていく，社会を担っていくのは県民の皆様一人ひとりであると我々は考えております。例えば景気が悪いよねという話もあるのですけれども，実際に経済活動であれば，経済の担い手である事業者の皆さんが何か新しいことに取り組んだり，そうすることによって初めて活性化していくわけですし，地域社会の中でも，それを担う皆さんが活躍されてこそ，その地域が活性化していくと感じております。それがまさに今日発表していただいた皆さんの例ではないかと思います。大竹でも本当に活発な活動がされているというのが今日改めてよく分かりましたし，こういった活動一つ一つが地域の宝ではないかと感じました。これからも今日の発表の皆様，頑張っていただきたいと思いますし，会場の皆様も，それぞれの役割の中でまた新しい明日のために力を出していただけると大変にすばらしい，ありがたいと思いますので，どうぞよろしくお願いいたします。

それでは，今日は長い間おつき合いいただきましてありがとうございました。４分ほど超過いたしました。どうもお疲れ様でした。本当にありがとうございます。

（司　会）

以上をもちまして，「湯﨑英彦の地域の宝チャレンジ・トーク」を閉会いたします。ご来場いただきました皆様，本当にありがとうございました。

なお，ご来場時にお渡ししたアンケートと地域の宝ネットワークの申込書を出口で回収いたしますので，どうかよろしくお願いいたします。

また，地域の宝ネットワークにおいては，フェイスブックによる交流も行っております。説明書を同封しておりますので，是非皆様にもご参加をいただければと思います。

本日はご参加をいただき誠にありがとうございました。どうかお気をつけてお帰りください。